

## 富秋中学校区等まちづくり検討会議（平成 29 年度第 2 回） 委員発言

### ■第 1 回ワークショップについて

資料 1 【第 1 回ワークショップまとめ】

資料 3-1 【ニュース案】

資料 3-2 【チラシ案】

※以下、特記無き場合委員の発言

- ワークショップでは、前向きな意見が多かったと思う。まちの良い所を伸ばしていきたい、という意見が多かった。早い段階で具体的な話、建替えをいつするのかなど、住民が分からないことをはっきりさせてほしい。
- ワークショップに参加出来なかったが、良く意見が出ていると感じた。地域の歴史教育に関連して、小中学校でも歴史教育を行う中で、中学生になると恥ずかしさが出てきて中々難しいようである。
- ワークショップは意見を言いやすい雰囲気があったと思う。ただ意見はたくさん出たが、市がまちづくりについてどのように考えているか、どの公共施設を取り壊して、いつ建替えるか等の具体的な話をまず最初に知りたい。
- 肯定的な意味合いで出ている意見を、否定的に感じている人も中にはいて、まちの感じ方に個人差があると思う。意識の差に目をつむるわけにはいかないなので、その差をどう埋めていくか。みんなで支え合い住みやすい環境を全体でつくっていく必要があると思う。  
例えば、団地のエレベーターホールで子どもが夜に騒いでいる、廊下に置いた消火器を子どもたちが持ち出して遊んでしまうので置いておくことが出来ない、などの問題があるが、そういう住環境を地域としてどのように変えていくか、学校や警察、地域等が連携し、知恵を出し合って考えていかなければ難しい。
- 若い人の住む所が地域にないという意見があったが、若い人が地域から出てしまってからでは仕方がないので、早めに対策をうつべきだと思う。今このエリアに若い人向けの住宅もスペースもないが、一方で空き家があるという状況なので、調整をどうするかという問題がある。（澤村委員）
- ワークショップに参加はしていないが、意見がよく出ていたように思う。一方で、マイナス面についての意見がどれくらいあったのか気になった。個人的になるが、引っ越しを検討する際、和泉市の中でも和泉中央駅より北側には良いイメージがない、と言われたことがある。  
また、地域に子どもが減少している理由として、団地が多く占めていること、狭い中に学校が多く存在することが原因になっているのではないかと。団地については、市として短期的、また中長期的にどう考えているか示してもらえると考えやすくなると思う。

⇒大きな話として、市がどういうことを考えているか知りたい、今後の具体的な話をしたい、スピード感を持ってやらないといけない、など共通した部分も多い話があった。元々は 2 回のワークショップの中でみなさんから意見を聞いた後に、専門部会を立ち上げて各テーマについて具体的な話をする予定だったが、今回 2 回目に出てほしいようなアイデアがたくさん出た。個別の話題につい

て深掘りをしていく必要はあるが、一度に色々議論するのも難しいと考え、2回目のワークショップについては次の資料のように、専門部会設立を見据えていくつかのテーマを設定し、それについてディスカッションを行う案を考えた。(事務局)

## ■第2回ワークショップについて

### 資料2【第2回ワークショップについて】

- ワークショップの参加者は、校区毎に偏りがあったか。もしあれば、参加が少ない地域の人へは宣伝の工夫が必要。
- 若い人がワークショップに来やすい雰囲気を作ることが大事。上の子がワークショップに参加している間に、下の子が遊んでいられる環境があれば良いかもしれない。  
⇒(事務局)  
学校の話は、今保育園に通っているお子さんをお持ちの方にも関係があると思うので大事だと思うが、何か良いアイデアはないか。
- 例えば、小さい子どもを持つ保護者が参加するために、保育付きであれば参加がしやすいのではないか。また、子ども同士だけで話し合えば、突拍子もないアイデアが出るかもしれない。  
⇒(事務局)  
保育士を呼ぶことができるかは検討したい。ニュースの工夫についても考える。
- 参加した子ども達には、大きな地図を渡して自由に意見を書かせたり、折り紙をさせたりして、子ども目線で意見を言ってもらえると良いかもしれない。
- 例えば各学校から生徒会などの代表者に来てもらう、もしくは学校の授業と連動することなどが出来ないか。そうなればPTAとしても動きやすくなる。
- PTA活動の一環で、保護者会でも説明に来てもらうなど、まちづくりについて知ってもらう機会があればよいと思う。  
⇒(事務局)  
専門部会は誰でも参加できる仕組みにするので、保護者同士などで輪を広げていただきたい。
- 前回のワークショップには子育て世代の参加が少なかったと思うので、地域の人への呼びかけが必要だと思う。そもそもワークショップとは何なのか分からない、という人もいるので、どんなことをしているかイメージが伝わるチラシになれば良いと思う。  
⇒(事務局)  
確かにチラシは字ばかりで面白くないので、内容が伝わるように工夫を考えます。  
また、子育てサークルの場に行って意見を聞きに行ったこともあるので、そういった機会も検討したい。  
次回のワークショップは提案通りの進め方とし、子どもや親子が参加しやすいようにニュース・チラシを作成する。
- 障がい者や在日外国人などの人には直接話しを聞きに行くなどしてほしい。  
⇒(事務局)  
今後そういう方へも意見を伺いに行きたい。